

A-2b-1：オキカメリアシドの単離と構造決定：小野寺 健一、廣瀬 美奈、津波 和代、花城 薫

<p>研究の概要、新規性及び目標</p> <p>①研究の概要 約700種の沖縄産生物資源のスクリーニングで、ツバキ葉抽出物がI型アレルギー反応の契機となる脱顆粒を強力に抑制することを発見したので、その原因化学物質の単離、構造決定を目標とした。</p> <p>②研究の独自性・新規性 代表的な抗アレルギー薬よりも1万倍以上も強い活性を示す天然物を、発見・単離・構造決定したことは、本事業が行った独自かつ新規な研究である。強力な活性は、抗アレルギー食品や新規抗アレルギー薬の開発に繋がるものと期待された。</p> <p>③研究の目標 フェーズⅠ：ツバキ葉中抗アレルギー成分の単離、構造決定 フェーズⅡ：抗アレルギー成分の各種試験用の為の供給体制確立</p>
<p>研究の進め方及び進捗状況（目標と対比して）</p> <p>ツバキ葉抽出物に含有された新規抗アレルギー成分の単離、構造決定に成功し、これについての特許出願を終了し、天然有機化合物討論会で発表し、さらにデータを追加して英文投稿論文を作成中である。</p>
<p>主な成果</p> <p>目的とした成分は、一般的な抗アレルギー薬として知られるフマル酸ケトチフェンよりも約1万2千倍もの非常に強力な脱顆粒阻害活性を示した。この成分の単離及び化学構造の決定に成功し、新規成分であったのでオキカメリアシド（OCS）と命名した。</p>
<p>研究成果に関する評価</p> <p>1 国内外における水準との対比 アレルギーを抑制する化学物質で医薬品を凌駕する程の効果を有する天然由来成分を発見した例は世界的にも類が無く、単離、構造決定の技術は高く評価できる。</p> <p>2 実用化に向けた波及効果 抗脱顆粒物質オキカメリアシドの本体が明らかにされたことで、食品利用、医薬品リード化合物としての利用、脱顆粒における細胞内情報伝達研究試薬利用が促進される。</p>
<p>今後の課題と研究開発方針について</p> <p>オキカメリアシドの構造決定では、NMRスペクトルデータの帰属をさらに完全にしたいと考えており、これについて最終の確認を行う。食品利用としては既に商品開発が行われ、発売された</p>